11月13日(金曜日)「イエスの受難週(3)」

【新改訳 2017】

ルカ 20・1-21・36

「イエスは宮で民衆を教え、福音を宣べ伝えておられたが、ある日、祭司長、律法学者たちが、長老たちといっしょにイエスに立ち向かって、イエスに言った。『何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。……』」(20・1、2)

この範囲は、日課の一日分としては長すぎると思われるでしょうが、受難週の三日目に当たる一日の記録ですので、あえてまとめて区分としました。主が、もっとも多くの教えをされた日とも言われます。

主イエスは、「権威」の質問に答えることはなさらず、世の終わりにかかわる多くの教えやたとえを話されました。「悪い農夫のたとえ」「カイザルへの税金」「復活」「律法学者たちへの警告」「やもめのレプタ献金」「世の終わりの前兆」「キリストの再臨のたとえ」などです。主の緊張感と真剣さが伝わってきます。

これらの話の多くの部分は、今日の私たちにも向けられる

警告です。「……あなたがたは……人の子の前に立つことができるように……祈っていなさい」(21•36)と。

~祈り~

主よ。やがて来るべき日に、あなたの御前に立つことができる者であらせてください。あなたのご再臨に備える日々の歩みをすることができますように。

【学びのために】

(参考区分) 20•1-47 宮におけるイエスの教え①1-8 主の権威について②9-19 悪い農夫のたとえ(権威問答の解答を含む) ③20-26 税金問答④27-40 復活と結婚関係の問題ほか。21•1-38 終末についての教え①1-4 やもめの献金②5-36 世の終わりのさまざまな前兆について。